

テーマを絞ってグループ討議 日野町まちづくり町民会議



これからのまちのあり方や
まちづくりなどについて話し合う、
第10回日野町まちづくり町民会議
(松本豊文委員長)が
7月24日、町役場で開かれ、
委員20人が出席しました。

会議は2か月に1回開催

今回の会議には、委員20人のほか、景山町長も出席し、ふるさと納税制度や町の機構改革など、まちの現状などの説明が行われました。

そのあと、今回は議論のテーマを、主に「高齢者の実情把握」、「可燃ごみの減量化とリサイクルの推進方法」、「町民体育祭と小学校の運動会の合同開催」を主なテーマとし、3つの班に分かれ議論が行われました。

A班の討議内容

(主なもの)

同じ。もっといいことがあれば出かける人も増えると思う。

町民体育祭と小学校の運動会の合同開催について
・以前学校側としてはたくないという回答だった。町民側、体育指導委員からは合同ではという声がある。

そのほかの意見

・こちらからどんな意見を出せば役場は変わるし、自分たちも変わらなくてはいけない。毎年、町に要望を出している自治会もある。
・ごみ出しがきつくて誰か代わりしてくれないかとの意見が自治会であった。そうはつきり言われる人もあれば、無理してごみを出される人もある。

高齢者の実情把握について
・高齢者施設やぼかばか教室などがあるが、それでみんなが満足しているか。年をとると不安な面があり、安心して暮らせるためにどういうことを望んでおられるのか聞いてみたい。みんなが助け合っていかなくては進まない。それが人づくり。
・前回の会議で、高齢者施設の職員に来てもらって説明を聞きたいという話があった。民間は利益を追求するがいい面もある。町は負担もあると思われるので、両方の意見を聞いてみたらいいと思う。
・保健師に相談するまでに不安な面があり、それを少しでも解消できるようにまちでなければ。そこに出かけて楽しいことでもしながら不安なことを話せるような場所がこれからは必要。
・町ではぼかばか教室などで高齢者の間ではそんな話が出るようだが、家族がその話を聞いていない。家族のほうにしていくのが大事なのでは。

・ぼかばか教室も、参加者が



町民体育祭の活性化を

B 班の討議内容（主なもの）

▼高齢者の実情把握について
 ・まちの高齢者の実情を把握するため、町の包括支援センターに聞いてみるかどうか。
 ・介護認定を受けている人が再認定のときに介護度が軽くなる可能性がある。それによって施設が利用できなくなる可能性がある。そのあたりを聞いてみたい。
 ・介護認定調査に来られると、いつもより元気をだしてしまふようだから、そのあたり

を配慮して問診してほしい。
 ・認定から外れた人をいかにして戻してあげるのか、町独自のものができないか。また、その他の元気な高齢者の居場所をどのようにするか。現場に出る職員の声の生のか。現場に出る職員の生の声を聞いてみる。
 ・ほかほか教室にももう少し人が来てほしいが、声をかけてもなかなか来てくれない。
 ・私の地区では、ほかほか教室に合わせてほかの行事を

して、声かけの機会ができてくる。
 ▼可燃ごみの減量化とリサイクルの推進方法
 ・可燃ごみの中に新聞紙を入れて出す人があり、注意したいが人間関係が悪くなりそう。話がでない。
 ・ごみの説明会でもしてもらったらどうか。
 ・ごみ処理に1軒あたりいくらか費用がかかっているか数字があると分かりやすい。
 役場からは自治会長あてにいつでも説明会をしてもらえる案内があるようだ。

ごろから考えておく。

可燃ごみの減量化とリサイクルの推進方法
 ・根雨のまちにもごみステーションが必要だ。
 ・雨の日に古紙を出している人がいる。濡れたら再生紙として利用できず可燃ごみになってしまふ。それぞれの意識の問題があるのでは。
 ・高齢者などでステーションまでごみを持っていくことができないのではないかとわかれるが、自治会でそういう人がいたら申し出てほしいと連絡したら誰も申し出てこない。問題は自治会でどうするかということ。自治会の取り組みが大事。
 ・ごみステーションは悪臭があつたり掃除をしたりと管理が大変。カラス対策も必要だ。
 ・町広報などでくぬぎの森への負担金額が公表されているが、金額が大きくてわかりづら。一人あたりとか一世帯あたりの金額やごみの量にすればわかりやすいと思う。
 ・マイバッグ運動など各自がごみの減量化に努めることが必要。

て。最近学校や保育所のグラウンドの芝生化が鳥取のほうで行われているようだが。
 ・反対意見だが、芝の管理は大変。学校も嫌がるのでは。
 ・実施した所では子どもが外で遊ぶ機会が増えたらしい。子どもたちが安心・安全で住みよいまちにするには取り入れるべきではないか。前向きに考えたい。
 ・限界集落の農地保全について。高齢化により農業をやめる家が出るなどさまざまな問題がある。郡民会議で農業に関する部会ができると聞いているので、タイアップして考えてみるかどうか。

話し合いを終えて

（全体会）

班ごとの協議のあと、再び全員で話し合いのまとめが行われました。
 ・今日の話し合いを受けて、次回のテーマを考えたい。
 ・ごみも頑張れば経費が安くなる。芝生を整備すれば子どもたちが遊べる。高齢化の問題もみんなで助け合うことが大切。
 ・8月中旬に介護保険や高齢者の問題について、町包括支援センターやケアマネージャーなど有識者を招いて研修する。

そのほかの意見
 ・グラウンドの芝生化について
 次回の会議は、9月25日（木）に開かれる予定です

C 班の討議内容

（主なもの）

町民体育祭と小学校の運動会の合同開催について
 ・町民体育祭と小学校運動会の合同開催について。すでに合同運動会を行っている学校の話聞いてみたい。
 ・地域、行政、学校、保護者が一堂に会して話し合う場が必要。住民の思いを学校に伝えたい。また学校の意見も聞きたい。

高齢者の実情把握について

黒坂地区自主防災委員会では、民生委員会から各自治会で災害弱者を調べるよう依頼



ほかほか教室の充実を

があつた。黒坂は自治会で調べているが、災害弱者とは高齢者なのか分からない。
 ・黒坂地区は震災のときも動

ける体制ができていたと聞いている。各地域の弱者を把握し、体制を整えておくことが必要である。
 ・黒坂は高齢者ばかりだが災害弱者を助け出す計画を自治会で作っている。
 ・土砂災害の際、防災無線などで住民に周知するシステムがあるのか。
 ・降雨量が多いときには防災無線などで周知したほうが良い。

・地域で弱者を助け出すシステムを確立しなければ。
 ・最終的には自分の命は自分で守る。災害が起きたときに自分がどう動けばよいかを日